鹿児島県総合教育センター所報

大原台

平成29年３月10日発行
第　１５９　号

〒891-1393　鹿児島市宮之浦町862
TEL：099-294-2311
FAX：099-294-2309
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/

24時間子供SOSダイヤル
0120-0-78310（全国統一フリーダイヤル）

かごしま教育ホットライン24
0120-783-574（固定電話専用フリーダイヤル）
099-294-2200（通話料有料）

平成28年度 調査研究発表会（報告）

平成29年１月27日（金）開催

＜全体研究主題＞
生きる力を豊かに育てる学校教育の創造

参加者は 408人！
ありがとうございました

全体会

（９:20～12:15）三つの研究発表を行いました。

プロジェクト研究

「みんなで取り組み，学び合う授業研究」の進め方Ⅱ
ー授業力向上を図るワークショップ型研修を通してー

＜発表概要＞
授業研究の活性化を図るために，全職員で共有した改善策を日常の授業につなぐ取組を提案し，事例発表を行いました。

- 授業研究を通じて改善策を検討する姿は，教師自身が教育の専門家として創造的な学びをする姿そのものである。
- 授業研究の視点をもつことは有効である。今後，子供の姿や授業の事実に基づく視点も加えていきたい。
- 身に付けさせたい資質・能力を子供と一緒に共有して，具体的な手立てや支援の方法を開発する必要がある。

鹿児島大学教育学部
廣瀬　真琴　准教授

研究発表Ⅰ（教科教育研修課）

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
ー主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通してー

＜発表概要＞
これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して，「資質・能力の明確化」，「課題の工夫」，「主体的・協働的に学ぶ学習の工夫」の三つの視点から発表しました。

- 児童生徒自らが探究し，表現する力の育成が求められている。
- 探究する中で基礎的・基本的な知識・技能の活用，定着が図られるよう，課題設定を工夫することが大切である。
- 児童生徒が課題を解決することに加え，更に追究したい問いの解決に向かう授業づくりを今後大切にしていきたい。

鹿児島大学教育学部
髙谷　哲也　准教授

研究発表Ⅱ（教育相談課）

児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究
ーSNSの利用による友人関係への影響に着目してー

＜発表概要＞
SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の課題を明らかにし，検証改善サイクルを基準とする組織的・計画的な指導・支援の必要性について発表しました。

- 児童生徒のSNSの利用は，低年齢化及び増加傾向にあり，これは全国・県内変わらない状況である。
- 今回開発した「SNSチェックシート」は，SNS利用における心理状態を把握するのに有効である。
- SNSを利用する，しないに関係なく，困り感をもつ児童生徒に寄り添う指導・支援が必要である。

鹿児島大学教育学部
大坪　治彦　教授

分 科 会

（13:15～16:45）８分科会で研究発表，事例発表，研究協議を行いました。

第1～5分科会の研究主題

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して－

第1分科会 国語科

○　他校種の実践はいつも勉強になる。
（中学校教諭）
○　研究協議では，指導方法について語り合うことができてよかった。
（高等学校教諭）

第2分科会 社会・地理歴史・公民科

○　深い学びについては学校レベルで合意形成を図る必要があると感じた。
（小学校教諭）
○　授業シートの作成など今後の授業等に活用していきたい。
（高等学校教諭）

第3分科会 算数・数学科

○　研究協力員の実践は，センターの考えが具現化されており，参考になった。
（小学校教諭）
○　学んだことを校内研修に積極的に取り入れていきたい。
（中学校教諭）

第4分科会 理科

○　資質・能力を高めるための課題や取組の工夫，「判断基準」の設定の仕方等とても勉強になった。
（小学校教諭）
○　ジグソー活動を取り入れる利点や具体例が学べてよかった。
（小学校教諭）

第5分科会 外国語活動，外国語科

○　「判断基準」や指導計画の立て方など参考になった。
（中学校教諭）
○　どの校種の事例発表も自分に還元できるものが多くあり，よかった。
（高等学校教諭）

第6分科会 情報教育

ICT活用場面に応じた情報モラルの指導に関する研究
－積極的なICT活用を通して－

○　各教科において日常的に情報モラルの指導を行う手立てが必要と感じた。
（小学校教諭）
○　情報モラルについての理解を深めるとともに，機器がもっと使えるように資質を磨いていきたい。
（中学校教諭）

第7分科会 特別支援教育

特別支援学校における指導内容の明確化に基づく授業に関する研究
－一人一人の確かな学びに応える
個別の指導計画活用の工夫を通して－

○　現状と課題に加え，分析や対応なども考えたいと思った。
（特別支援学校教諭）
○　他の学校がどのように個別の指導計画を作成しているかが分かってよかった。
（特別支援学校教諭）

第8分科会 教育相談

児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究
－SNSの利用による友人関係への影響に着目して－

○　インシデント・プロセス法が広まりつつあるなと感じた。
（小学校教諭）
○　学校楽しぃーとやSNSチェックシートの活用や取組を具体的に紹介していただき，分かりやすかった。
（学生）

全体会の資料がほしいなあ…

他の分科会資料もほしいなあ…

当センターWebサイトに
全体会・分科会資料を掲載しています！

当センターWebサイトのトップページ

調査研究発表会 資料

こちらをクリックしてください。
本年度の発表会資料を掲載しています。是非，御活用ください。

当センターの長期研修者10人が一年間取り組んできた研究内容を発表しました。新しい時代の教育の在り方を考えたこの一年間は，新しい自分発見の連続でした。長期研修者の皆さんにとっての一年間をメッセージにしてお届けします。

長期研修の研究抄録と研究報告書は，平成29年４月に，当センターのWebサイトに掲載する予定です。

新たな自分に出会えた一年間。自らの研究を深めることは勿論のこと，教師としての資質・能力も磨くことができました。この長期研修で学んだことを生かし今後も情熱をもち，謙虚に学び続けていきます。

伊佐市立大口小学校　下井田　智彦　教諭

「数学的な思考力・表現力を高め，算数を学ぶことのよさを実感できる学習指導の在り方　－対話的な学びを位置付けた第６学年の求積指導を通して－」

新任1年目に先輩の先生方や生徒たちに助けられながら無我夢中で仕事を覚えていった日々を思い出します。あの時と同じように，素晴らしい師や仲間たちとの出会いに支えられ，教師人生の再スタートを切れたこの1年に感謝します。

県立伊集院高等学校　西山　公樹　教諭

「積極的に英語で話そうとする生徒を育てる授業の在り方　－協働的な言語活動及び発問の工夫を通して－」

しん（真）摯に研究と向き合い，研修を重ねた日々は時には苦しく，時には楽しくもありました。教師としての資質と能力を高めることができた充実した1年でした。教学一如を胸に，今後も還元の二歩を実践し，職務に励みます。

鹿児島市立清水小学校　野浦　知生　教諭

「互いの思いや考えを分かりやすく伝え合う力の育成を目指したICT活用　－タブレット端末の特性を生かした学習指導の工夫を通して－」

しんけんに研究に向かい，自分自身と向かい合って過ごした日々。教師として，人としての生き方，考え方も教えていただきました。　この一年を未来の子供たちに，そして自分自身に還元できるように努めます。

出水市立西出水小学校　浦﨑　なるみ　教諭

「児童自らが『読む力』の高まりを実感する国語科学習の在り方　－『判断基準』を基にした『言語活動のルーブリック』の活用を通して－」

いろはを学んだ1年でした。年間の研修を通して研究の進め方や文章の書き方，プレゼン作成など教師としての土台を築くことができました。今後も学びの歩みを前進させながら，教師としての資質・能力を高めていきたい。

南大隅町立神山小学校　松﨑　洋樹　教諭

「『わかる』・『できる』をつなぎ，動きの変容を実感する体育科学習の展開　－ボール運動における協働的な学び合いを位置付けた学習指導を通して－」

いろいろな出会いをし，いろいろな学びができたこの一年は，これからの教師生活において，かけがえのないものとなりました。ここで出会えた縁を大切にし，これからも学び続ける教師でありたいと思います。

県立鹿屋養護学校　小薄　朝美　教諭

「生活単元学習における科学的な見方や考え方を育成する指導の在り方　－知的障害のある生徒に対する理科に関する指導を通して－」

時間の流れとともに変わること，変わらないことを知ることができ，これまでの自分を見つめ直すことができました。一年間の研修を通して学んだことを，更に深めていきたいと思います。

南さつま市立万世小学校　榊　俊輔　教諭

「自然との関わりを自ら広げる児童を育成する理科学習指導の在り方　－『学びを生かし，実感する』学習活動を重視して－」

自問自答の連続で，研究の難しさを実感しました。しかし，研究主事の助言や仲間との学び合いを通して，学ぶことの楽しさを知ることができました。これからは，それを子供たちに返していきます。

日置市立鶴丸小学校　宮田　靖弘　教諭

「社会的な見方や考え方の成長を実感できる社会科学習の在り方　－よりよい社会生活につながる学習過程の工夫を通して－」

代わりは２度とない学びの1年でした。多方面から多くの気付きを頂き，温かい支えと応援の中で，初心にかえり，自分を見つめ直すことができました。教師として，謙虚に，ひたむきに学び続けたいと思います。

鹿児島市立甲南中学校　吉永　あゆみ　教諭

「外国語科における自律的な学習者の育成を目指した学習指導　－CAN－DOリストの活用と音声を重視した学習活動を通して－」

分かる授業を目指して，研究及び研修に没頭した1年間でした。ここで学んだことを生徒たちに還元できるように，今後も自らを高めていきたいと思います。

県立国分高等学校　木下　景介　教諭

「論理的な記述能力の向上を目指した学習指導の研究　－文章読解と意見論述の関連付けによる論理的な文章の『型』の活用を通して－」

高等学校情報教育継続研修 発表会・修了式

平成29年2月3日（金）開催

年間20回の研修で学んだことを発表しました

鹿児島県総合教育センターのブログを開設しています。

県立鹿児島工業高等学校	有薗　輝泰	カウントアップデジタルカウンター
県立鹿児島水産高等学校	九鬼　功二	Arduinoを活用した園芸用自動散水機の製作
県立吹上高等学校	大友　隆太	PICによる電子ルーレットゲームの製作
県立加治木工業高等学校	谷門　周二	マイコン（Arduino）による室温制御
県立鹿屋工業高等学校	田木　博文	神経系反射型トレーニングマシンの製作
県立鹿児島南高等学校	久保田　大将	個に応じた指導のための設問分析表
県立川内商工高等学校	下川　智子	資格取得の個票印刷(エクセル関数及びマクロ)
県立野田女子高等学校	川口　裕介	情報の難しい知識がなくても編集することができるＩＣＴを活用した印象に残る学校紹介資料の作成
鹿児島商業高等学校	林　さおり	マクロ・VBAを活用した検定対策問題作成
霧島市立国分中央高等学校	久保　梓	VBAによるアイデア発想法用のツール作成と電子黒板の活用

本年度の研修の様子や研修内容の詳細は当センターWebサイトに掲載してありますので御覧ください。
研修報告書は，３月中旬に掲載します。

課題研究で製作したものを改良して生徒の指導に役立てたいです。学ぶ姿勢を生徒に見せられるようにありたいと強く感じました。また，校内ＬＡＮや情報に関わる校務にも挑戦し，この経験を生かしたいです。

研修者の感想から，今後の教育に対する熱い思いが感じられますね。

教科を問わず，多くの先生方にこの研修をもっと受講してほしいと思います。授業へのＩＣＴの導入は大きな課題で，周りの先生方に積極的に受講を勧めていきたいです。

思い

「未来の創り手を育むために」

次長兼研修部長　阿多　理

子供の頃、「ドラえもん」の秘密道具「翻訳蒟蒻」が本当にあれば、世界中の人がもっと自由に語り合って仲良くなれるのにと思ったことがあった。今や、人工知能（ＡＩ）が外国語の自動翻訳を現実のものとし、言葉の壁はなくなろうとしている。

新学習指導要領のキーワードの一つに、「社会に開かれた教育課程」がある。社会の中の学校であるためには、子供たちの学校生活の核となる教育課程を捉え直し、教育課程を介して社会や世界との接点を持つことが重要となることを示したものだ。

未曽有の災害となった東日本大震災における困難を克服する中では、子供たちが現実の課題と向き合いながら学び、国内外の様々な人々と協力し、被災地や日本の将来を考える姿が復興に向けての大きな希望となった。同時に、人口減少に歯止めが掛からぬ本県、延いては日本全体においては、地域の宝である子供たちが「何ができるようになるか」が、地域活性化の基盤となる。新学習指導要領が、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」にまで踏み込んだのも、こうした背景がある。

先日、※ある授業を参観した。自分の将来像を考えさせるテーマのもと、四人構成の班で意見を比較・検討してまとめた後、ワールドカフェ方式で他の班とも交流しながら多様な価値観に触れ、他者理解に繋いだ授業であった。感心したのは、級友の考えを受容し共感するだけでなく、「自己内対話」を繰り返しながら「未来の自分」の方向性を考え、今の自分にできることを再認識しようとする姿があったことだ。

ＡＩの進展が世の中を便利にすることについては衆目の一致するところだ。「翻訳蒟蒻」の実現は国と国との対話を盛んにするだろう。しかし、国境を越えた対話を経て共感し、協働する過程においては、教育の果たす役割が大きい。例えば、異文化理解や世界的人口増加と食糧問題の解決に至っては、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）が目指す考え方を踏まえ、教育課程全体の取組を通じて、自らの課題として捉えさせ、自分ができることを考え実践させることが大切であるからだ。

教育課程の基準となる学習指導要領の改訂を機に、まずは教師自身が「未来の創り手」を育む授業づくりに向け、存分に懊悩したい。

※「ある授業」とは、フレッシュ研修でのロングホームルームの授業。「ワールドカフェ方式」の詳細は、「VIEW21 2016 June高校版(Benesse)」を参照。